

地域包括ケアの地区展開

令和6年度

池尻

地区アセスメント

人口	面積 （k m ² ）	人口 （人）	人口 密度 （人/ k m ² ）	高齢者 人口 （人）	高齢化 率（％）	年少人 口（人）	年少人 口率 （％）	世帯数 （世帯）	平均世 帯人数 （人）	高齢者がいる世帯数				高齢者がいる		介護保険		障害者手帳保持 者		障害サービス受 給者	
										高齢単 身者世 帯数	高齢者 のみ世 帯数	その他 高齢者 がいる 世帯		世帯率 （％）	内高齢 单身・ 高のみ 世帯率	認定者 数（人）	認定率 （％）	身体障 害者手 帳	愛の手 帳	自立支 援給付	障害児 通所給 付
	1.186	24,342	20,524	4,146	17.03%	2,579	10.59%	14,810	1.64	3,119	1,581	741	797	21.06%	15.68%	886	21.37%	420	89	103	74
	傾向 ○世田谷区の東に位置し、東側で目黒区に境を接している。北側は淡島通りで代沢地区と接し、南では下馬地区、西では太子堂地区に接している。池尻1～4丁目と三宿1～2丁目から なっている。バス、鉄道など交通の便は良い地区である。また高齢化率は世田谷区の中では低いほうであり、都心に近く通勤便利なこともあり働く世代が多く居住している。																				
地域活動	町会・自治会 数	会員世 帯数	サロン等登録団体数					社協・ 新たな 居場所 登録団 体数	社協・ 民間施 設の活 動場所 発掘件 数	社協・ 地区サ ポータ 登録者 数	生活支 援体制 整備事 業 協 議体開 催回数	資源開 発・生 活支援 サービ ス件数		主な活動団体とその取組内容 平成23年に立ち上げ地域の困りごと等の情報共有の場として毎年開 催してきた「三宿池尻まちこま会」はコロナ禍により令和2年度以降 中止を余儀なくされたが、令和4年6月に約2年半ぶりに開催し、5年 度以降は年1回の開催を基本に継続開催していく。コロナ禍を契機に 「まちなか作品展」など新たに開催した事業や四者連携の多世代交流 事業として「みちあそび」などを展開していく。							
	8	11,542	16	11	3	2		2	18	39	16	3									
生活支援	地域密着型サービス								ショ－ トステ イ	特別養 護老人 ホーム	介護老 人保健 施設	都市型 軽費老 人ホ－ ム	サービ ス付き 高齢者 向け住 宅、有 料老人 ホ－ム	うち、 特定施 設入居 者生活 介護	障害者・児 通所系・共同生活介護等						
	定期巡 回・随時 対応型 訪問介 護看護	夜間対 応型訪 問介護	認知症 対応型 通所介 護	小規模 多機能 型居宅 介護	看護小 規模多 機能型 居宅介 護	認知症 高齢者 グル－ プホ－ ム	地域密 着型特 別養護 老人 ホ－ム							障害者施設（生活介護2・短期入所1・グループホーム1） 障害児通所支援1 障害児通所支援放課後等デイサービス1							
	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0								
	障害相談支援機関・相談支援事業所																				
	指定特定相談支援事業所1																				
医療	医療機関、訪問看護等 病院4か所（地区内）自衛隊中央病院、古畑病院（隣接区）三宿病院、東邦大学医療センター大橋病院、診療所9か所※世田谷区医師会HPより 歯科医院8か所※世田谷歯科医師会HPより																				

子ども・教育	児童館	池尻児童館
	その他、児童施設	池尻小新ＢＯＰ、三宿小新ＢＯＰ、多聞小新ＢＯＰ、世田谷プレーパーク
	おでかけひろば	お出かけひろば三宿
	地区内に所在する小学校または関係のある小学校	池尻小学校、三宿小学校、多聞小学校
	地区内に所在する中学校または関係のある中学校	三宿中学校、富士中学校、筑波大附属駒場中学校、世田谷学園中学校、駒場東邦中学校
	地区内に所在する高校・大学等または関係のある高校・大学等	青鳥特別支援学校、筑波大附属駒場高校、世田谷学園高校、駒場東邦高校、昭和女子大学、食糧学院、国立音楽学院
	保育施設	多聞幼稚園、池尻保育園、三宿保育園
	子どもに関するその他の事項	
	子ども食堂など（地区内では1施設、個人宅を活用しているため住所非公表）	
その他支援	その他の支援機関など（例：就労支援など）	
公共施設	図書館	池尻図書室
	地区会館、区民集会所など	池尻地区会館、三宿地区会館、池尻区民集会所

住 まい ・ 環 境 ・ 防 災	主な公園・緑道・広場		世田谷公園、池尻3丁目公園、三宿の森緑地、目黒川緑道
	土地利用、地理的特徴（住宅の特徴を含む）		
	【地勢】 区の東側に位置し、目黒区と接している。北部に北沢川、烏山川緑道があり、三宿と池尻の境目で合流し、目黒川緑道へと至る。地区南部には、世田谷公園があり、各種スポーツ施設、噴水、花壇、ミニS L等があり、休日は特に賑わいを見せる。		
	交通の便に関する事項（鉄道・道路）		
	鉄道は、東急田園都市線池尻大橋駅があり、最寄り駅では三軒茶屋駅が利用でき、渋谷方面への利便性は高い。 道路は、「通称・玉川通り（国道246号線）」が地区の中央を、北部には淡島通りが東西に走り、渋谷と西方の各地域を結ぶ多くの路線バスが運行している。また、南北を結ぶ幹線道路は、三宿から淡島を結ぶ都市計画道路（補助26号線：都道）が令和4年10月に交通開放された。道路整備に伴い、無電柱化、沿線の不燃化・耐震化が進み、交通利便性の向上、火災時の延焼遮断帯としての機能、避難路、緊急車両等の通行路として、防災性向上にも大きな役割を果たすことが期待される。		
	産業に関する事項（買物・商店街などを含む）		
○商店街は、通称「三宿四ニ○商店会」いわゆる昔ながらの商店街の形態では無いが三宿通り周辺地区において商店事業者を中心に2009年に発足した商店会があり全国的に有名になった「世田谷パン祭り」を開催するなど沿道地域の集客力や賑わいの創造に寄与している。 ※6年度からの世田谷区地域行政推進計画には、新たな産業活性化拠点（池尻にあった世田谷ものづくり学校の跡地の活用）の取組みを商店街の発展や賑わいにつながるよう推進します。との記載あり			
防災 → 各地区の地区防災計画を参照			

地区課題解決の取り組み	地区ビジョン ○災害に強い助け合いのまち ○犯罪のない安全安心のまち ○支えあいのやさしいまち
	課題、取り組みの方向性 <地区防災力の向上> 令和５年度に地区防災マップを作製して管内世帯に全戸配付し、在宅避難など防災に関する啓発を進めてきたが、一方で、避難所運営訓練や、町会の防災訓練への、地区住民の参加が少ない現状がある。災害時、自助・共助の活動は極めて重要であり大規模集合住宅への働きかけ、青少年地区委員会やごみ減量・リサイクル推進委員会などの事業を通じた啓発や、小中学生（保護者）を通じた周知・啓発など、地区住民の防災意識向上や活動への参加を促進する活動を進めていく。 コロナ禍において活動が停滞していた指定避難所３校について「ファーストアクションカード」を使用した開設訓練を実施し訓練の質と実践力の向上を図っていく。また運営会議等を通じて各避難所の運営マニュアルの充実に取り組む。 <交流> 国道２４６号線に分断されている都営池尻２丁目アパート周辺には大型スーパーが無く、高齢者は２４６号線を渡ることが多く買い物に苦勞している。都営池尻２丁目アパートでのコンビニエンスストアによる移動販売（令和５年５月より毎週火曜日開催）を継続支援していく。移動販売と併せて月１回開催の誰でも参加できる居場所事業「あおぞら」の機能拡充や、地域の行事（まちなか作品展、がやがや村まつり等）を通して、多世代で参加・交流できる取り組みも同時に進め、顔の見える関係づくりを推進していく。 <担い手> 地域活動の核である町会・自治会を中心に地域活動団体構成員の高齢化が進み、活動の担い手が減少している。地域の困りごと等の共有の場として、平成２３年から開催してきた「三宿・池尻まちこま会」を定期的開催していく。また、まちこま会で挙げた課題については地域包括ケアの四者連携会議を中心に情報共有し、イベント等を通じて交流したＰＴＡやおやじの会等の新たな担い手の発掘を継続し、中長期的視点にたって解決に向けて取り組みを進めていく。また、同様に地域の行事などに児童館利用の中高生を中心にボランティアへの参加を経験をさせることで、将来の地域の担い手を育てていく。
	参加と協働の地域づくりの取り組み内容 【社協】地域交流拠点として池尻団地の集会所を活用し、団地自治会や近隣町会とともに検討する中で、地域の方が講師となり活躍する場にもなるよう定期的なイベントを開催している。並行して、買い物困難支援として毎週火曜日にセブンイレブンの移動販売を都営池尻２丁目アパートで実施している。 四者連携で開催している「まちこま会」を契機に、地区社協事業として子育て支援ネットワークが立ち上がっている。子ども関係団体のつながり強化、地区内の子育て世帯に関する課題共有と解決に向けた取り組みを検討していく。 【あんすこ】認知症や障害等の有無、世代や立場を超えての活動『にんにん会』を継続。地域住民、介護サービス事業者やぽーとせたがや等と連携し、『がやがや村まつり』『ごきんじょ市』をはじめ、地域の様々な活動を通してお互いを知る機会を広げる。また、地域で活動する医療機関や介護サービス事業者など支援者同士が地域で連携協力できるよう、定期的に『池尻地区医療と福祉の連携交流会』を実施する。 【児童館】昨年の池尻児童館60周年記念祭りをきっかけに、四者連携・地域と共に多世代交流のできる「みちあそび」をスタートさせた。今年度は「子どもの日」に心と体を育てる外遊びを実施した。さらに国道２４６号線のまちづくりセンター側のふれあい広場でもみちあそびを予定している。今後も四者連携の地域のイベントとして、細く、長く、「みちあそび」「外遊び」を定期的に継続し、子ども達の生きる力を育てると共に、多世代交流を通して乳幼児、小学生、中高生世代、子育て中の方、認知症の方、高齢者、障害のある方がお互いに助け合える優しい地域づくりに取り組む。 【まちづくりセンター】 四者キャラクターをデザインした「啓発用エコバック」を作成する。四者連携事業等の周知の手段として各種事業やイベントで配布し「身近な相談窓口」を知らなかった地域住民にも各窓口や施設をＰＲしていく。